多くのつながりは、望む生活実現の第1歩

みらいサポ

主催：みらいサポ実行委員会

7/25金

1部19:00～20:00（無料）
2部20：30～22:00（会費あり）

会場：1部　テルサ中会議室・2部　当日お伝えします。

1部

障がい福祉と介護保険の
相談業務従事者のトークセッション

"人"を支援すること

清水東地域包括支援センター
管理者　川浪　奈央子様

ふくしま基幹相談支援センター
所長　秦　様

2部

のみサポ

気軽な環境できずなを深めましょう！

場所：当日発表
参加費：3500円

参加申し込み

事業所名　　代表者名　　参加人数　　名

１部のみ参加・２部のみ参加・両方参加（申込締切７月２２日）

申込先：みらいサポ事務局　０２４－５６３－７６５３

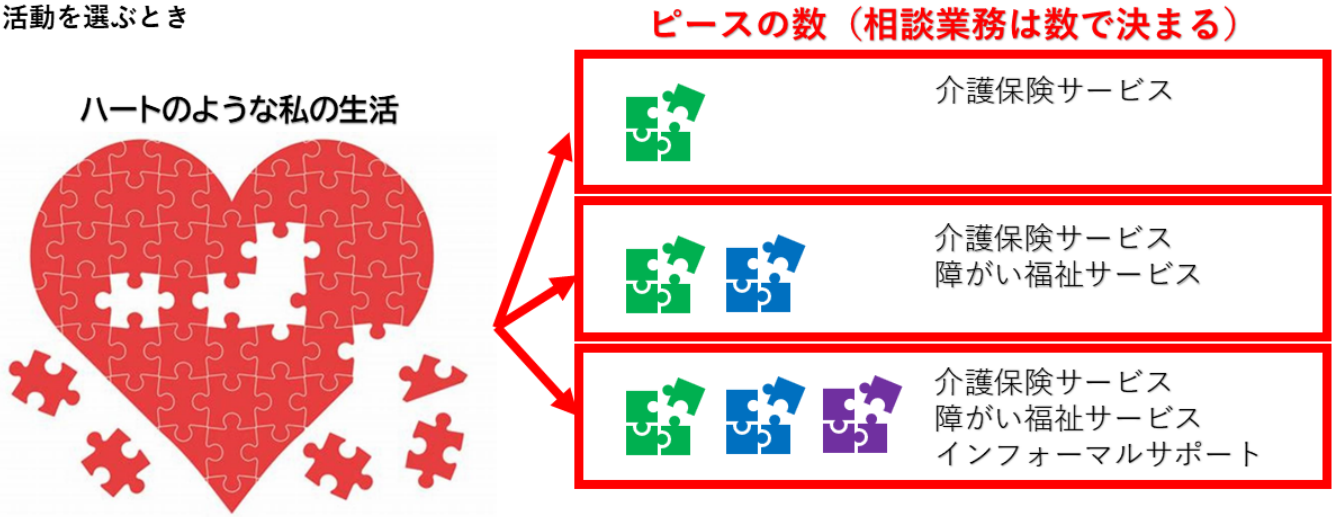
前回のみらいサポ　渡邉　多佳子先生による「人を支援するということ」

5月28日（金）にテルサ中会議室にて、5月期のみらいサポを開催いたしました。今回は、むつみ脳神経・耳鼻科クリニックの渡邉　多佳子先生に「人を支援するということ」をテーマにお話をいただきました。
当日は、70名を超える参加者が、日頃、なかなか聞けない多佳子先生の想いや原点ともなるお話を聞くことができました。
はじめに、多佳子先生が影響を受けた人物の書籍から
自分の現状を見つめなおしたとき、診察時に
かける時間のこと、ルールを守れない患者さんに対する対応の
考え方、思うように治療が進まない方への考え方
訪問診療の患者への対応の考え方など
多佳子先生の理念となっているのが
一人一人に向き合っていくことなど
自分として大事にしていること以上に
迷ったときに助言をくれる人、支援
するときにかかわってくれる周囲の人々
を大切に思っていることが、すごく伝わ
ってきました。その思いが周囲にも伝わって
今回の参加人数にも見えるように、多佳子
先生のもとには人の輪ができるのだと感じました。

みらいサポが考える顔の見える関係性

A，顔の見えるつながりづくり

なぜ、顔の見えるつながりが必要か？
🔷日常的な支援の中で起きる具体例をもとに必要性を説明
①　選択肢
例）６８歳の認知症の方の進行防止と介護負担軽減のための
日中活動を選ぶとき



食事や排せつなどの日常生活動作や活動など、その行為や出来事などのピースで生活が成立している。
加齢や病気でできなくなった部分のピースをサービスやサポートで埋めていき、元の「ハートのような生活」を取り戻していく
すべて埋まらなくても、なんとなく「ハート」とわかる。